

火曜会通信

2008(H20)・2・01 発行

伊丹市千僧 1-1 伊丹市教育委員会事務局内

< 会長年頭挨拶 >

子年（起・承・転・結）

旧年の煩惱を除夜の鐘 108 の音と共に取り除いてもらい、会員の皆様もすがすがしい新年を迎えられた事とお喜び申し上げます。108 の煩惱がどのように言われたのか、毎日新聞（平成 19 . 12 . 25）朝刊にのっていました。中国からの仏教思想のようです。

六 根	（眼・耳・鼻・舌・身・意）	} . . (6 + 6 = 12) * 3 = 36 * 3 = <u>108</u>
六 塵	（色・声・香・味・触・法）	
好 } 悪 } 平 }	過去 } 現在 } 未来 }	
又は、四苦・八苦 (4 * 9 = 36) + (8 * 9 = 72) = <u>108</u>	

火曜会の発足平成 8 年は子年でした。一巡して子年を向えられました。第 13 回ガイド養成講座も始まろうとしています。

（起・承・転・結）の 起の部分も 12 年を経過して、ようやく無事に過ごせました。いよいよ 承の部分に入って来ます。転 結とまだまだ道は遠いですが、一步・一步前進していくのが楽しみです。何事にも、あせらず、くさらず、毎日を楽しく、生涯学習をやりとげたいものです。会員の皆様のますますの御発展を希望します。

伊丹市文化財ボランティアの会 会長 池田 利男

* 社会教育課長から以下の新年ご挨拶、お礼等が寄せられていますので以下にご紹介します。

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、「伊丹ロマン事業」も、皆様にご協力をいただき、盛況に終わりましたことに厚く御礼申し上げます。本年も、社会教育課は、皆様方の会の運営に、支援をさせていただきますので、本市文化財にかかる様々な事業に更なるご協力をよろしくお願いします。

伊丹市教育委員会生涯学習部社会教育課 課長 石 堂 行 文

朗読

『女下駄』に想う

柳沢 森夫

「飯の焦げた匂いがただよってきた。」藤沢周平作「女下駄」の朗読のエピローグが終わる。音楽と共に照明が消え、幕（障子）が降りる。文化財ボランティアの会の観客の拍手を受ける。

この作品と出会ったのは夏の暑いさかりだった。作者の藤沢周平についての人となりを探り始めた。東北は山形県鶴岡の出身で昭和2年（1927）の出生など。この作品のテーマ、ねらいを幾度も読み重ねて掘り起こす。「明かりとりの小窓から夕日がさしこんで、台所の中

はぼんやりした明るみに包まれている。清兵衛はその光の中にかび上がる鍋釜や、吊り棚の上の摺り鉢、重ねた小皿などを眺めたが、こうしてはられないといった気持ちにうながされて、また仕事場にもどった。」といった情景描写が詳細に記述され、その場がありありと浮かび上がる。それによって清兵衛(主人公)の心理状態が鮮明に表われてくる。また登場人物(お仲、長次郎、弥佐衛門、お仲の弟など)の人となりや人間関係、ことばの表現法を工夫したり・・・この心理状態だから当然こういういい回しになるだろうとかを学びとる、舞台効果をより高める為の音楽・照明・衣裳・装置などの調達など多くの支援者の惜しみない協力を得ての発表となる。



朗読劇『女下駄』（藤沢周平作）文化財ボランティアの会定例会

何とか上演を終えた今、藤沢作品の神髄に少しでも迫り、表現を通じて果たして観客に伝えることが出来ただろうか。限りなき後悔の念が胸裡をよぎっている。

～バス研修旅行に参加されなかった皆様方へ～

先日はバス研修旅行にご一緒出来なくて残念でした。

当日は、会員 33 人そのご友人達が 10 名と沢山の参加がありとても賑やかに出発致しました。途中雨がぱらついたりしましたが、目的地に着く頃にはすっかり良い天気になりました。

予定通り最初に豊岡市立「コウノトリの郷公園」に行きました。一度は絶滅したコウノトリでしたが、旧ソビエトから贈られた幼鳥を、市民が一丸となり「人と自然の共生」をテーマに飼育した結果、今では 100 羽を超えるまでになったようです。7 月には放鳥した親鳥から初めての雛の巣立ちがみられニュースになりました。

その後曜日グループごとに分かれて美味しい昼食に、舌づつみをうちました。

午後は国史跡の竹田城址を訪ねました。この山城は全国でも屈指の遺構で 1441 年頃太田垣氏により古城山（353.7m）の山頂部に築かれました。その後秀吉の 2 度にわたる但馬征伐で一度は廃城になりましたが、1600 年頃に赤松広秀により、今に残る豪壮な、穴太積みの石垣に守られた山城となりました。その姿が虎が臥せているように見えることから「虎臥城（とらふすじょう）」とも呼ばれています。徒歩で登るグループとタクシーで登るグループとに分かれ山頂を目指しました。頂上では但馬の山々が一望に拓け、この地に築城したことが解るような気が致しました。今回計画して下さったタクシーの利用は、何時もなら見学を諦めておられた方々も上まで行くことが出来、よい方法だったと思います。

その後、紅葉のなかを一路、生野銀山へと向かいました。でも生野に着く頃には夕暮れが迫り残念ながら銀山の観光坑道のみが見学となりました。職員の方の案内を受け要領よく見学することが出来ました。江戸時代の坑道の狸穴や銀の鉱脈・ノミ跡などを見ながら奥深く進み坑内作業者が命を託して地中に下りたエレベータ等を見て過酷な労働に従事した人々の姿を偲ぶことが出来ました。展示してある男女の人形の褌や腰巻の赤いのもそれなりに意味があり工夫されていたようです。

坑道から出た時はつるべ落としの秋の日も落ち、すっかり夕闇に包まれていました。帰りは何時ものように会長のハーモニカ演奏・酒井さんのクイズなどで盛り上がり楽しく帰ってまいりました。幹事の皆様に感謝しながら帰途に着いた次第です。簡単なお報告になりましたが今度こそ一緒できることを楽しみにしています。

秋季バス研修旅行報告

永野 昭一

バスツアーにはいつも楽しく参加させてもらっていますが、今回の訪問先は豪華三点セット。11月13日、前日の寒さとは違って変わって凌ぎやすい好天のなか、出発。まず「コウノトリの郷公園」テレビの映像などでよく目にしますが、やはり実物の情景を目の当たりにするのはすばらしいことです。昔は、多分どこでも見られる光景であったと思いますが、今ではここだけでしか見られないのは誠に寂しい限りです。観察ケージの中でエサをついばむ姿をみていると、紙芝居「赤くなったこうのとりの」の情景を彷彿とさせてくれます。もっともっと繁殖して日本中の至るところで飛翔してもらいたいものと願うばかりです。

次は国史跡である「竹田城址（虎臥城）」頂上へはタクシー組と徒歩組に分かれ、私は徒歩組に参加しました。天守台まで353.7mなので、それほど高くはなかろうとタカをくくって登ったのですが、つづら折れの山道はけっこう傾斜がきつく、距離もあり、汗だくの登頂でした。それだけに頂上に着いたときの達成感はひときわです。よくもまあこんな小高い山のでっぺんに城を築いたものと感心するばかりです。但馬の守護山名宗全が出石城の出城として13カ年を費やして築城。その後、赤松広秀が現在の石垣積み城郭を築いたとのことであるが、機械の無い時代に人手により、これだけの石を運び上げ、積むといったエネルギーを想像するだけで感嘆するばかり。「日本のマチュピチュ」とは大袈裟表現ではありますが、言い得て妙と思います。山上でのくつろぎも早々に切り上げて下山、時間もせまった夕刻に最後の目的地の「生野銀山」へ。室町時代から延々と掘り続けられ、昭和48年まで続いたといわれる発掘の痕跡に手彫りの厳しさが身にしみてきます。菜種油での灯りを頼りに狭く暗い坑道を掘り続けることは至難の業であったことでしょう。ボランティアの解説者も上手に話され、その話法を大いに見習わなければと感銘した次第。以上、三点セットは非常に楽しく思い出に残る旅でした。幹事の皆様、ありがとうございました。



有岡城にちなんだ俳句と川柳

池田 利男

俳句

野面積み 栄華の夢か 石仏
おぼろ月 城趾に影の 夢さそう
うしろ髪 涙の雨が 女郎塚
朝立ちの フロイスも見た 惣構え

川柳

村重を しのぶ図がらか 酒万頭
村重も 万頭になり あきれ顔
酒万頭 がぶり村重 しぶい顔

川柳

乾 みのり

『賀状』

絶筆と なった賀状へ 香をたく
賀状から いろんなねずみ かしこまる
添書きの クセ字なつかし 年賀状
絶筆と なってもいいと 書く賀状
一行の 添書き文字に 酔う賀状

猪名川町の文化財、木喰仏

猪名川町にある東光寺、毘沙門堂、天乳寺には、木喰仏24軀が大切に守られている。木喰もくじきは、当初木喰行道と称したが、76歳の時に木喰五行菩薩、さらに89歳の時に木喰明満仙人と改めている。木喰は、全国を旅する遊行僧で、訪れた先で一木造の仏像を刻んで奉納した。猪名川町を訪れた時は、90歳で、約3ヶ月間滞在し、多くの仏像を造った。東光寺には、檜の立木に刻まれた立木子安観音、本堂内に自刻像、十王坐像、葬頭河婆そうずかのばば、白鬼びゃっきの14軀が祀られている。立木子安観音立像は見る者をなごませる、優れた仏像である。毘沙門堂には、自刻像と七仏薬師の7軀が、天乳寺には、自刻像と得大勢至大菩薩立像、聖観世音大菩薩立像の3軀が大切に保管されている。これらの木喰仏は、木喰が到達した造仏の境地を知る上で、極めて重要な仏像である。

昨年10月6日～11月4日、「木喰展」が明石市立文化博物館で開催された。

この展覧会は、「各地の現存作品の中から、木彫仏をはじめ、書画などの資料も交えた約140点を展覧し、庶民の信仰の中で守り続けた「微笑仏」の魅力を探る」ものであった。会場は、ほっとする優しい空間に満ち満ちていた。私には、不動明王、子安観音菩薩、如意輪観音菩薩、聖観音菩薩、自刻像に強く心が引かれた。また、彼が書いた利剣名号（南無阿弥陀仏の字体が剣の様）が何点か出品されており、「利剣」はどこから由来したのか（中国の善導の真跡名号に淵源か）、何の意味があるのか（利剣が魔の邪網を切り裂く、無量の罪障を取り除く）を考えさせられた。

行基を慕う、円空、木喰行道

円空も木喰も木食僧である。木食戎というのは、五穀や肉を断ち、火食せず、木の実、山菜、蕎麦粉などを常食とする真言宗の厳しい戒律である。円空や木喰にとって、木食戎と廻国遊行、遊行途上での造仏（作仏さぶつ）活動は重要な宗教実践である。彼らの宗教活動は、国家が管理する寺院に属さず、知識結ちしきゆいを率いて、布教し、寺院、橋梁、池溝を造るといった社会活動（利他行）を実践してきた僧行基を手本にしていたと考えられる。事実、「浄海雑記」に、「円空は幼い時天台宗に帰し、やや長ずるにおよんで尾張の高田寺で退蔵界・金剛界両部の密教の秘法を承け、無垢清浄の捨身の行者となり、もっぱら行基僧正を慕い、自ら十二万の仏像を彫刻する大願を發した」とある。

行基の造仏と霊木化現仏れいぼくけけんぶつ

「行基が留止る処には皆道場が建つ。その畿内には凡そ四十九処」と「続日本紀」にある。各々の道場（寺院）には仏像も安置されたであろうが、行基の造仏活動に触れている確たる資料は乏しい。上記の高田寺の薬師如来坐像は行基仏の代表作と考えられている。伊丹市の了福寺縁起では、行基が毘陽寺に遊歴して、夢に光り輝く楠の大木を見て、その大樹を発見して伐採し、二体の薬師如来を造った。一体は了福寺に安置し、もう一体は毘陽寺に祀ったとある（「摂陽郡談」）。一体の霊木から分れた仏像は霊木の持っていた力を分け持っているという「同木異体」は中世仏教では一般的な考え方である。例えば、長谷寺の本堂・本尊十一面観音菩薩については、徳道上人が一本の楠の霊木から二体の十一面観音像を造り、一体は大和の長谷寺に安置し、もう一体は海に流したところ三浦の長井に流れ着き、藤原房前が鎌倉の長谷寺を創建して祀ったと言われている。

近畿地方に多く残る行基仏の特徴は、素木で彩色がなく、異相で、木の生々しさを残し、神像と仏像が同居していることが多い。このような仏像制作は、国家寺院の造仏所での仏像制作とは異なっている。

木彫像は木目が美しく香りのある檀木（白檀、紫檀、梅檀）で製作するように決められている（インドの経典）。わが国には、白檀などの香木が存在しないので、芳香が強い楠が代用材として使用されたと考えられる。当時は楠の大木が多くあったと考えられる（鹿児島県始良郡蒲生町蒲生八幡神社境内にある大楠や福岡県糟屋郡宇美町宇美八幡宮境内に20本以上存在する大楠を見れば納得する）。楠以外に、榿かや、桂、桜、桧が檀木

の代用材として用いられた。わが国には「霊木信仰」があり、仏教伝来以前から存在した神道で「神木」扱いされた霊木が、天の神様であった雷が落ちた「霹靂へきれき木」で、仏像を制作する必要があった。霊木の中に仏が姿を現すという特異な思想を表現するには、完成一步手前の形象が効果的であった、霊木化現仏説（井上正）。霊木で製作された仏像だからこそ一般庶民の信仰対象になったと考えられる（神仏習合）。行基は、霊木化現仏を用いて布教するとともに、建設・土木事業に必要な材木を取得していったと考えられる。

円空や木喰の造仏活動は行基のそれとよく似ている。「円空の作仏は、素材となる木がまずあり、その中に見出した聖なる形を、なるべく手間をかけずに彫り出そうとしたようにみえる。断ち割った断面をそのまま活かした部分も目立つ。素材である木の特性を活かそうとした意味で自然崇拜（アニミズム）の色合いが濃い。それに対して、木喰行道の作仏は大きさや形が比較的そろっており、材料である木を手にする前に、あらかじめ彫り出す仏のイメージが固まっていたようにみえる」（矢島新）。円空の荒削りで直線的な作風に比べ、木喰の仏像は丸みを持ち、微笑を浮かべた温和な作風のものが多く。

- ・ 幹事会 11/6 12/4 1/8
- ・ 定例会 11/13 (バス旅コウノトリ生野銀銅山)
12/11 1/17 (新年会)
- ・ 火曜会通信 35 発行・・・11/1
- ・ 文化財清掃・・・11/3
- ・ ガイドブック編集会議・11/5 12/ 1/
- ・ ロマン事業・・・11/4～11/26
- ・ しめ縄作 12/22 西伊丹幼 12/23 花里小 12/26 中公
- ・ どんぐり座公演 12/1 大鹿交流 C 12/22 西伊丹幼
- ・ 各部会 古文書 第3火pm スワンH
P C教室第2・4木pm ラスタH
どんぐり座 第3火am スワンH

編集後記

上記で作成のしめ縄、私は花里小での大とんど焼きにてお役目締めくくりました。2008年も早や1月が過ぎました。

我々の会も13年目にはいります。今年度のボランティア養成講座も11名の受講生でスタートしています。今年は多くの修了生を迎えて活動したいものです。

会のホームページが「伊丹市文化財ボランティアの会」と入力、「検索」でご覧いただけます。

伊丹市ポータルからも「文化・スポーツ・生涯学習」「市内文化財」「伊丹市文化財ボランティアの会」で見ることが可能です。ぜひご覧下さい。

M. Goto

ガイド日程・時間	団体・人数
11/4(日)10:~15:	親子ふれあいハイキング(50名)
11/8(木)15:00~	平井敬司氏他(6名)
11/9(金)	伊丹市 北中学校(86名)
11/10(土)13:30~	さつき循環友会(40名)
11/14(水)14:45~	ITC 関西クラブ(20名)
11/15(木)10:30~	野菊(17名)
11/17(土)10:00~	池尻雨アジサイ会(6名)
11/18(日)11:~11:30	神戸歴史クラブ(30名)
11/21(水)10:30~	天理市東部公民館(20名)
13:00~	藤井寺はいく会(26名)
11/25(日) 15:40~	阪神北県民局魅力ある地域づくり課(45名)
12/2(日)15:00~	野外歴史地理学研究会(60名)
12/4(金)11:20~	賀古の里大学(加古川市高齢者)(60名)
12/7(金)13:30~	川西いずみ会(15名)
12/14(金)13:30~	伊丹市 北中学校(86名)
1/18(金)10:00~	文史会(10名)
1/26(土)10:30~	NPO 国産材住宅推進協議会(30名)
1/30(水)10:00~	般若(7名)
2/7(木)11:00~	伊丹市神津小学校4年生(53名)
2/14(木)10:30~	伊丹市南小学校3年生(154名)
3/21(金)13:30~	槻歩クラブ(30名)
4/11(金)10:00~	自然総研(35名)
4/20(日)12:00~	阪急電鉄他5私鉄リレーウォーク(3000名)